經濟論叢

第128巻　第5·6号

比較地方財政論よりみたイギリス型……池　上　　惇　1

マルゼルブの蔵書売立目録について……木　崎　喜代治　16

19世紀末イギリス鉄鋼業関係者の
「大不況」対策……山　田　昭　夫　33

国有石油産業とメキシコ資本主義発展……草　野　昭　一　55

株主全員一致の理論の再検討……小　島　専　孝　77

経済学会記事

経済論叢　第127巻・第128巻　総目録

昭和56年11・12月

京都大學經濟學會

II 英国における相続と財産分布

バーミンガム大学上級講師 パトリック C. マクマホン

〔紹 介〕

P. C. マクマホン氏 Patrick C. McMahon は現在，文部省の「英国大学教授招へい計画」による招へい客員講師として，7月7日より10月31日までの4カ月間，経済学部に滞在中である。氏は1939年ダブリンに生まれ，国籍はアイルランド，ダブリンのトリニティ・カレッジを卒業後，英国オックスフォード大学にて経済学修士の学位を得，ロンドン大学経済学部数理経済学講座において最初の教職を経験，その後バーミンガム大学に移り，経済学博士の学位をえた。現在はバーミンガム大学上級講師（助教授）の地位にあり，専攻分野は，数理経済学，金融論，分配論と幅広く，京都大学では「比較金融政策論」（学部3・4回生，修士課程配当）を講義中である。また氏は，ドイツ，オーストリア，シンガポール，アメリカ合衆国の諸大学で講義．研究に従事した経験をもち，その業績は，主著「Saving and Investment in the U. K. and West Germany」1979を始めとして，主に上記研究分野の実証研究論文30篇にのぼる。

本日10月15日，学会定例研究会では "Inheritance and Wealth Distribution in the U. K." と題して報告された。概ねの主意，内容はつぎのようである。

英国における個人財産の分布は極端に不平等である。それは同国の所得分布に比較してもそうであるし，他の先進諸国に比較してもいわゆる富の偏りがはげしい。いくつかの実証的研究によると，こうした個人財産の集中は，今世紀に入ってから多少低下したことが明らかになったと主張されたが，事実としては相続財産が家族の間で分割されたことを見落していた。また個人財産の不平等を是正するべく，1940年代には資産税 estate tax の税率引上げが実施されたが，結果は明らかに失敗であった。個人財産の蓄積に相続が，いわゆる一代で稼いだ富よりも，数量的にどれほど重要な意味をもつかという問題は，経済成長や資産税制に興味をもつ経済学者，社会学者の関心のまととなった。

新しい実証的研究には二つの方法が考えられる。ひとつは，特定の年に亡くなった人の遺産と，彼らの父親の遺産との相関関係を調べる方法である。ハーバリーとマクマホンは，1950年代と1960年代について，巨額の遺産をのこした人々のサンプルについて，「相続」の重要性をテストした。第二の方法は，複利計算を応用して，二つの時点の間の富の成長を比較する方法である。いずれの接近方法の場合でも，トップ・クラスの遺

産をのこす人々は，英国では，一代で築いた人ではなく，巨額の遺産を相続した階層であることが立証された。

かように英国の個人財産の偏在は牢固として抜き難く，さらに相続によって伝えられてゆく。自然科学における基礎研究がすぐれて発達しつつあるにもかかわらず，現代英国経済の新投資，新技術の実用化が停滞しているのは，こうした社会構造——富の偏りとその遺贈——にも原因の一半があるといえよう。

なおこの報告の原型は下記の論文である由。

Inheritance and the Characteristics of Top Wealth Leavers in Britain.

The Economic Journal, September 1973, Vol. 83.

（石川　記）